

学校関係者評価報告書

御茶の水美術専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人服部学園 御茶の水美術専門学校の令和4年度自己点検・自己評価の結果報告に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下のとおり評価結果を報告いたします。

記

1. 開催日時

令和4年11月10日（木）10：00～12：00

令和5年 6月29日（木）10：00～12：00

2. 開催場所

学校法人服部学園 御茶の水美術専門学校 会議室

3. 学校関係者評価委員

委員長 渡部卓明（企業）

委員 長倉義信（公益法人）、星賢人（企業）、加藤祐貴（企業）、阿部克也（企業）

4. 議事経緯

令和4年度上期（11／10委員会）および年間（6／29委員会）の自己点検・自己評価の実施結果について、学校関係者評価委員会において学校側関係者より説明・報告を行い、各委員から評価結果に対する評価コメントならびに改善に向けた意見・提言をいただいた。委員の総括評価および主な評価コメントは以下のとおり。

5. 評価結果

(1) 総括評価

学校側による293項目の自己点検結果は、「○」が236項目（80.5%）で昨年度より2項目増加し、全体的には良好な教育活動・学校運営が遂行されていることが確認できた。しかし、一部項目において改善すべき課題があるため、課題項目毎に策定した改善方策を確実に実行し、更なる教育活動・学校運営の質の向上を目指すよう期待する。

(2) 各委員の主な評価コメント

- ①御校の教育は、目的意識を持って何のためにやるのか深掘しながらやっていて素晴らしいと思う。目的意識を強く持たせることが学生にとって非常に重要なことではあるが、企業にはしっかり目的意識がある人がいる会社とない会社があるので、就職した際にそこでの対応ができるように育成していくと、より学生の未来が明るくなっていくと思う。

- ②産学連携で大手企業に課題をいただいて、発表してフィードバックを受けることは非常に学びが大きいと思う。日本の企業はいいモノ、いいサービスを作っているが、それがしっかりと伝わっていないケースがある。その課題を学生が解決してあげられると実績になって自信につながり、その先の就職にも生かしていける。実績というところで、学生の将来につながるころまでできると更に素晴らしいと思う。
- ③学生の日常の意識を変えることは難しいが、御校ではサーキュラーエコノミーを授業に取り入れており、学生の意識の変化が定着している。学生の意識と御校の教育のギャップを埋めるために、学生の強みである可視化された広告を通じて、教育のレベルを上げながら新しい学生を引き付ける循環を生み出すことができると思う。
- ④プレゼンテーションで一般公開を再開されたのは、インプットの範囲を広げるという点で非常にいいことだと思う。また、募集においてSNSを積極的に活用していることは、意識の高い能動的な高校生ほど早めに関心があるので効果的である。キャンペーンや進路ガイダンスなどの接点を継続して増やしていくと更に効果的だと思う。
- ⑤御校のダイバーシティに対する取り組みは、これまで長年やってきた歴史ある取り組みであることをしっかり社会に見せていくことが大事だと思う。表面的な取り組みをしている会社は、売上もマーケティングもメリットがない状態になっており、批判されるところは自然淘汰されて本物だけが残るので、御校は今のやり方を今後も貫いていただきたい。
- ⑥4年制大学は、学びと社会をどうつなぐかが大きなテーマになっていると聞く。御校の場合は、非常に自然な形で社会の中に学びがそのまま溶け込んでおり、その場面・場面が学びの機会になっているというのが特徴的だと思う。地方都市まで行って、そこでプレゼンをするようなことは4年制大学ではできない。非常に差別化された教育プログラムを御校は持っており、プロジェクト型ポートフォリオをはじめ本当にいい学びをされているので、特に来てほしいと思う人たちが集まりそうなところに向けて、もっと発信する機会をつくるといい。

以上